

えっ?!

# 自衛隊を戦地に 派兵する?!



衆院予算委員会で質問する志位和夫委員長=5月28日

安倍政権がしゃにむに突き進む集団的自衛権の行使容認。日本共産党の志位和夫委員長の国会論戦で、その本質がクッキリしました。

志位委員長「『戦闘地域に行ってはならない』の歯止めを残すのか、残さないのか」

首相「(残すと言わず)従来のあり方を検討する」

志位「自衛隊が『戦闘地域』に行くこともありうるという重大答弁だ」

これまでは、アフガニスタン戦争やイラク戦争に自衛隊を派兵する際に、「武力行使してはならない」「戦闘地域に行ってはならない」という「歯止め」が法律に明記されていました。この「歯止め」を残すのか、残さないのか——志位委員長がなんどたずねても、最後まで「残す」と言わなかった安倍首相。逆に自衛隊の活動を拡大する方向で「検討する」と言いだしました。

「戦闘地域」に自衛隊が行けば、相手側の“攻撃”の対象となって、戦闘にまきこまれます。戦争の泥沼にはまりこんでしまいます。

## 米国の戦争で日本の若者の血を流す

# 海外で戦争する国にはさせません

「軍事同盟は“血の同盟”」「しかし、今の憲法解釈では、日本の自衛隊は少なくともアメリカが攻撃されたときに血を流すことはない」(安倍首相)「集団的自衛権を行使するようになれば、自衛隊が他国民のために血を流すことになるかもしれない」(石破幹事長)

自衛隊はこれまで、1人の戦死者もださず、1人の外国人も殺しませんでした。アメリカの戦争に自衛隊を参戦させ、日本の若者たちに血を流す“貢献”をさせる——日本を「殺し、殺される国」にする暴走を許すわけにはいきません。

## 日本共産党

戦地に行った若者たちは

アメリカ	イラク・アフガン帰還兵は、1日平均22人が自殺。3人に1人が精神疾患に。
日本	イラク派兵の自衛隊員のうち1～3割が精神不調。28人が自殺。

